

## ひろば大代

NO. 204

大代公民館

「公民館長に就任して」

下市 市原仁郎

前館長の渡吉正氏が体調を崩されて  
辞任され、空白期間が二カ月半続きま  
したが、去る六月二十日、市教育委員  
会より辞令を受理し、正式に就任致し  
ました。

今年は大代町にとって二つの大きな  
仕事があります。一つは大代町ふれあ  
いコミュニティセンター（仮称大江高  
山コミセン）の建設。二つは大代バイ  
パスの建設です。何れも今年度に完成  
するものではありませんが、その第一  
歩を進めるべく受け皿作りをしなけれ  
ばなりません。

町民の皆様と論議を尽くし、一本に  
まとめるべく最大の努力をする考えで  
おりますので、どうかご協力をよろし  
くお願い申し上げます。



「ありがとう」

関西高山会の皆さん」

柿田 横手新治郎

関西高山会の十日位前でした。電話  
など一度もくれた事がない同級生から  
の電話を家族の者が受けた。何の用事  
だろうと思っているうちに、今度は違  
う同級生からの電話。何れも用件は同  
じでした。今度開かれる関西高山会に  
出席できないかとのこと。関西に居る  
同級生にも連絡して出席してもらおうか  
らとの誘いで、はじめて高山会に出席  
することにした。

出発は午前三時半、思わぬハブニン  
グもあり、大代を発つたのは四時少し  
前でしたが予定通り大阪に着いた。関  
西高山会の皆さんはまだ誰も来ておら  
れなかった。開会時間近くなるとそれ  
らしき方が少しずつ来られたが、私の  
知らない方が半分はあったろうか。名  
前を聞けば分かるかも知れないがそん  
な余裕はなくもっぱら同級生の到着を  
不安をいさながら待った。最初に男  
性一人がやってきた。同窓会にはいつ  
も出席しているからすぐわかった。次

は女性二人。三十五、六年ぶりの再会  
なので顔が分かるか心配であったが、  
やはり同級生、学生時代の面影が残っ  
ておりすぐに分かった。「変わってな  
いねえ」の言葉に喜んでよいのやら。  
最後の一人は男性。頭も白くなり以前  
会ったときより随分変わっている。と  
もかくこれで五人がめでたく再会出来  
た。

十一時より総会が開催され、それぞ  
れの役員さんからの挨拶。東京高山会  
の会長さんも駆けつけてのお祝いの言  
葉。続いて懇親会に入って自己紹介。  
名前や大代に在住の時の思い出などを  
聞いて思い出せる人もあれば全くわか  
らない人も多くあった。しかし共に大  
江高山の麓で何年か過ごした人だけの  
集まりだから一言一言が懐かしく、あ  
の家の方かと思いついた方もあった。  
酒を飲み交わしながら思い出話をし  
ているうちに予定の時間も経ち、最後  
は全員で「ふるさと」を一緒に大声で  
歌いながら元気で再会を誓い閉会とな  
った。このままで別れるのはどの思い  
で会場を変えて今度は茶話会。集まっ  
たのは私を中心に一級下と二級上の皆

さんが期せずして同席することになり同じ中学生時代の思い出などを語り合いながら、一時間ばかりがあつと言う間に過ぎてしまった。四十数年前の事でも昨日の事のように思い出す事が出来、楽しいひとときであった。

こうして関西高山会の皆さんのおかげで懐かしい方に沢山お会いする事ができました。これもお世話をされる皆さんのご苦勞があればこそと厚くお礼申し上げます。

今後は大江高山をふる里として共有する者が、お互いに呼びかけ合い、少しでも多くの方が集まり、友好を深めることが出来れば、有意義な人生になることと思えます。関西高山会の益々の発展と、この交流会が有意義な会となりますよう祈念いたします。

「趣向を凝らした

第五回関西高山会記念総会」

関西高山会事務局長 中本 弘



総会も五回目ともなればマンネリ化傾向が強くなり、それを打破するため

にどうするか、役員一同英知をしぼった結果、意外性を出すことにしました。六月九日大阪梅田の「新北京」で恒例の総会及び懇親会を開催したところ大盛会の内に終わったことを先ず報告します。

第一部総会では市原大代高山会長、高村自治連合会長、そして森婦人会副会長各位様の挨拶の主旨は「ふる里大代も頑張っているけーな。その頑張っている姿を見に帰りんさいや」でした。

また東京石見高山会田中会長様は現役を去り、ややゆとりの出来た今「ふる里大代と東京を往復して、大江高山の雰囲気味わう機会が多くなった」とのこと。市原関西高山会長が挨拶の時に「ふる里大代はドイツの古い町ローデンプルグとよく似ている」と述べられ、私共まだ外国に出かけたことのない者には一度行って見たい夢を与えてくれました。

更に関西高山会からは総会の案内状の中に山本春子様より「総会に出席することが楽しみである。どの方と出会うかがあるかそれを楽しみに毎日毎日働いている。」と近況の報告がありました。

た。

意外性の一つとして、第二部の懇親会で大阪なにわ本場の笑い、漫才の竜助（島田神助の相方）と今若手の漫才師として売出し中の土達屋よしゆきを呼びました。しゃべくり漫才の後、各テーブルで随時談笑、写真撮影、色紙にサイン等と盛り沢山のサーブス、これぞ大阪なにわの雰囲気をつぶり一時間三十分味わわせてもらいました。

このお二人のゲストを本会に招待するため尽力された田辺副会長の長男英樹様のフィアンセを当会場で紹介され会場の中で一際目立ったことは言うまでもありません。

また田中東京会長さんの遠戚の木村様という女性の方が、総会の雰囲気即興で詩を吟じられるなど、予定の時間を忘れる位「笑いあり」「美しい花あり」「ピリツとする詩吟あり」でした。

司会進行も工夫を凝らし、笑いで盛り上がりました。

又昨年一月十七日阪神大震災で被害にあわれた砂原様の状況報告、藤井・永井様のふる里の現況報告、そして木

